



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第88号



創立40周年記念山行 八ヶ岳 7月10日(木)～13日(日)

日高研二

当支部は1985年(昭和60年)7月15日に創立され、今年は40周年の節目となることから、記念事業として、どこか県外の記念山行をという声上がり、4月の総会で「八ヶ岳山行」が承認され、多田周廣会員を中心に計画が練られた。多くの支部会員に参加してもらうために体力に応じた「縦走コース班」・「ゆっくり山行コース班」・「散策コース班」の3コース班を設定し、実施日は創立日前の7月10日(木)～13日(日)で計画され、参加者を募ったところ15名の希望者があり、それぞれ各班5名に分かれて山行することとなった。その内容は概略下記のとおり。

【1日目】7月10日(木)

宮崎空港を8時15分、羽田空港に向けて出発。羽田空港からはチャーターしたバスに乗り込み中央自動車道を一路長野へ向かう。15時20分に八ヶ岳山麓駅に到着。ここで、静岡県在住の畑島良一会員ご夫妻と合流し、全員で集合写真を撮影後、ロープウェイで約7分で

坪庭山頂駅へ。木道を歩き約15分で草原に建つ青い三角屋根の縞枯山荘に到着。宿泊者は支部会員だけで、和気あいあいとした雰囲気ですぐに美味しい夕食をとりながら歓談。午後8時、明日からの山歩きに夢を膨らませながら就寝する。

【2日目】7月11日(金)

4時起床、天気は上々。15名全員で山行の安全を願い、縞枯山荘をバックに記念写真を撮影後、出発。ここから3班それぞれのコース計画に基づき行動することとなる。

縦走コース班 山行距離約13km、所要時間約12時間

縞枯山荘(5:50)⇒縞枯山(6:35)⇒茶臼山(7:50)⇒麦草峠(9:20)⇒高見石・白駒池分岐(10:20)⇒白駒池(10:30)⇒高見石小屋(11:40)⇒中山展望所(13:55)⇒中山峠(14:45)⇒東天狗岳・黒百合平分岐(16:25)⇒東天狗岳山頂(17:00)⇒根石岳山荘(18:00)

ゆっくり山行コース班

縞枯山荘⇒北横岳⇒坪庭⇒坪庭山頂駅(ロープウェイ)⇒八ヶ岳山麓駅(バス移動)⇒麦草峠⇒白駒池巡り・白駒荘

散策コース班

縞枯山荘⇒(多田会員)5辻コースを30分程散策、(他4名)坪庭散策⇒坪庭山頂駅(ロープウェイ)⇒八ヶ岳山麓駅(バス移動)⇒麦草峠⇒白駒池・白駒荘

【3日目】7月12日(土)

縦走コース班 山行距離約5.5km、所要時間約9時間

根石岳山荘(6:20)⇒箕冠山(6:30)⇒夏沢峠(7:10)⇒硫黄岳(9:15)⇒硫黄岳山荘(9:50)⇒横岳(11:40)⇒三叉峠(12:30)⇒地蔵ノ頭(14:30)⇒赤岳展望荘(14:40)⇒赤岳中腹(16:00)⇒赤岳展望荘(16:25)

ゆっくり山行コース班

白駒池⇒高見石⇒白駒池(バス移動)⇒富士見パノラマリゾート Gondola 頂上駅⇒入笠山頂⇒山彦荘

散策コース班

白駒池巡り(バス移動)⇒富士見パノラマリゾート Gondola 頂上駅⇒山彦荘



八ヶ岳最高峰 赤岳(2899.4m)



【4日目】7月13日(日)

縦走コース班 山行距離約8.5km、所要時間約5時間30分

赤岳展望荘(4:50)⇒地蔵ノ頭(5:00)⇒行者小屋(6:20)⇒美濃戸山荘(9:20)⇒美濃戸口駐車場(10:10)

ゆっくり山行コース班・散策コース班

山彦荘⇒富士見パノラマリゾート Gondola 頂上駅⇒美濃戸口駐車場・美濃戸口駐車場で3班合流後、バスで羽田空港に向かい、空路帰郷。

(終わりに)

3班に分かれての記念山行であったが、参加された会員それぞれ楽しい思い出に残る山行となったものと思う。縦走コース班は山行距離、所要時間などからハードで、八ヶ岳の険しさを体験することとなったが、コマクサなどたくさんの綺麗な花々や自然の癒しがあり何とか完登することができた。今回記念山行は、天候に恵まれ、何よりも参加者全員が大きな事故もなく無事山行できたことに感謝したい。

※各班の詳しい山行記録は40周年記念誌にて紹介する。



赤岳展望荘の夜明け



<参加者17名>谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・栗林忠信・福島龍好・(畑島良一・畑島富士子 10、11日のみ参加)

[5月定例山行・Aコース]高千穂峰 5月25日(日)

服部 澄子

大淀川ゴルフ場駐車場を7時25分出発する。天気が気になるが徐々に明るくなってくる。道の駅「ゆーぱるのじり」でトイレ休憩して高千穂河原の駐車場に着く。登山準備をして9時45分に登山開始する。ビジターセンターの前の鳥居から古宮趾を右に巻いて遊歩道に入り、森の中の石畳の階段を歩く。昨年満開のコガクウツギの花はまだ二分咲き。とてもかわいい黄イチゴの実はまだ熟れていない。これから登る御鉢までの急坂が見えてくる。御鉢まではガレ場の急登になりきつくなる。右側の斜面はミヤマキリシマで満開。登山者の疲れをいやしてくれる。また岩の隙間にミヤマキリシマが根づいて見事だ。途中から右下方にミヤマキリシマのピンクに染まった鹿ヶ原も見ることができた。こちらも散策予定だったが火山規制で立ち入り禁止となっていて残念ながら行くことはできなかった(この二日後噴火警戒レベルが3から2になり立ち入り規制が解除された)

御鉢の火口尾根、馬の背を歩く。直径約550mの臼状火口で深さ約200mの火口底が見える。火口側面にも満開のミヤマキリシマがたくさん咲いている。ここから見上げる高千穂峰は我々の山行ではいつもはガスに覆われ全容を見ることはあまりない、しかし今回は視界が良く高千穂峰をきれいにすることができた。せっかくだからとここでも高千穂峰をバックに集合写真を撮る。多くの登山者の中には前に赤ちゃん背中にリュックを背負ったお母さん、5歳ぐらいの男の子とおばあちゃんらしき家族が下山してきた。声をかける事もできないほどの速さです



馬の背 後方に見えるは目指す高千穂峰

れ違った。

霧島神宮元宮で休憩をとる。これから最後の登りにかかる。ゴロゴロした黒みを帯びた溶岩のガレ場は正念場だ。頂上に登るとき下山する人が多いとすれ違いが大変だが、私たちは幸い止まる事はなく頂上に12時10分に着く。頂上には「天の逆鉾」が立っている。風が強く少し寒い。頂上からは錦江湾が良く見えた。天の逆鉾の裏で風も当たらず素晴らしい展望を前にして昼食を摂る。13時05分下山開始。下山は登るより大変。溶岩のガレ場、急な下り坂はとても滑りやすく転びそうで慎重に足を進める。御鉢からの下りはガレ場でこんなに長い急な下りは他の山では記憶になく大変だったが、滑ることもなく全員無事に駐車場に15時に着く。整理運動をして15時20分出発する。道の駅「ゆーぱるのじり」に立ち寄り、河川敷駐車場に17時20分着。

今回の登山は天候に恵まれ、ミヤマキリシマも満開で楽しい山行だった。標高差600m、コースタイムも短くこのくらいの山なら皆さんに迷惑もかけないので今後も参加していきたい。

〈参加者8名〉服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・柏田英子・日高研二・武田芳雄・服部岩男

〈コースタイム〉大淀川河川敷駐車場7:20～高千穂河原9:20/9:40～馬の背11:00～元宮11:25～山頂12:10/13:05～元宮13:30～高千穂河原登山口15:00/15:20～大淀川河川敷駐車場17:20



高千穂峰山頂

[5月定例山行・Bコース]えびの高原池巡り 5月25日(日)

栗林忠信

5月定例山行は健脚グループは高千穂の峰、足に自信のない者のためにソフトコースとして鹿ヶ原散策を計画されていたが、鹿ヶ原は新燃岳の入山規制により立ち入りが禁止されていたため、多田さんの提案で、えびの高原の白紫池、六観音御池、不動池の池巡りコースに行くこととなった。多田さんご夫妻、清家さんと私4人で、多田さんの運転でえびの高原に向った。前日の大

雨が嘘のように上り、宮崎市内を出発するときには24℃と夏を思わせる暑さであったが、えびの高原の駐車場に着いた時には13℃まで下がり、少々肌寒く感じた。

午前10時、多田さんを先頭に池巡りコースを歩き始めた。入り口の標識に白紫池まで1km、40分と書いてあったが、平均年齢80歳超のメンバーであり、ゆったりとしたペースで歩き、やがて左手に展望所が現れた。展望所

からは韓国岳、えびの高原一帯を見渡すことが出来た。遠く韓国岳の中腹にミヤマキリシマが鮮やかなピンク色の花びらを咲かせていた。さらに登っていくと傾斜も緩み、白紫池分岐に達した。右に行くと池巡りコースであるが、左に折れ、5分程登っていくと、二湖パノラマ展望台に着いた。眼下に白紫池、その右手に六観音御池を、さらに六観音御池の向こうには山頂が平たい甑岳を見渡すことが出来た。時計も12時近くになり、ここで一休み、ベンチに座って弁当を開いた。私が作ったピクルスが好評であった。

展望台から引き返して白紫池に向った。この池は水深が浅く、冬場は凍結して、かつては天然のスケート場として利用されていたが、現在は利用されていないという。私がまだ若い頃、子供を連れて来たことを思い出した。白紫池から右手に進み、長い緩やかな下り坂を下って行くと、やがて六観音堂が現れ、すぐ先に六観音御池展望台があり、コバルトブルーの鮮やかな湖面が

眼下に広がっていた。湖畔には屋久杉を移植したと伝えられているスギの巨木が聳え立っていた。不動池には硫黄山噴火の影響で通行止めになっており、時刻も午後2時半近くになり、今日の池巡りはここで終了として、帰路につくことになった。約1時間ほどで出発地点のえびのエコミュージアムセンターに戻り、多田さんの運転で無事に宮崎に辿り着いた。7月の八ヶ岳山行の予行演習に丁度良い山行となった。

<参加者4名>清家順子・多田登美子・多田周廣・栗林忠信



二湖パノラマより
後方に甑岳

[6月定例山行－1]伊東氏48城 穆佐城 6月15日(日)

多田 周廣

当日は小雨模様的一天で、前日までの天気予報も芳しいものではなかったが、当城のボランティアガイドの方に案内をお願いしてあり、また来たる7月の八ヶ岳山行の足慣らしも兼ねてか13名の参加であった。この案内事務所は穆佐城一郭の水害前の穆佐小学校跡にある。

今年支部創立40周年特集として「伊東氏48城」の記念集を作り始めているが、「48城」跡にガイダンス施設が作ってあるのはここ穆佐城跡だけで、本日も二人の方に小雨の中、熱心に案内していただいた。私が今年4月にこの城を訪問した時は、曲輪、空堀、堀切など雑草がきれいに切られ主郭の近辺はゴルフ場のショートコースのようだったが、今回は一面に雑草の原野になっていた。年に二度ほどは草刈りをされているとのことだが整備、維持も大変なご苦労だと思う。

この城址は県道18号線旧穆佐小学校裏山の小高い

丘にある。穆佐院の城域には曲輪、空堀、堀切などの遺構が残っている。当地は、島津荘穆佐院に属し足利氏の所領で南北朝期(1300年代)は畠山直顕の拠点になるなど争乱の中心地であった。応永10(1403)年に島津氏が入り、文安2(1445)年から約130年間は伊東氏の支配下となる。当時、攻防を繰り返したのは土持氏、伊東氏、肝付氏などでその中でも日向の国守護畠山直顕は穆佐城を拠点として遠くは大隅の国までその勢力を伸ばした。南北朝が終わるとその攻防は島津と伊東との争いに引き継がれ文安2(1445)年から130年余の間、伊東氏による支配が続いた。伊東氏が天正5年(1577)没落後は薩摩の所領となり元和7(1630)年廃城となった。

穆佐城は平成14年3月19日国指定史跡となっている。

<参加者13名>清家順子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・柏田英子・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・栗林忠信・福島龍好



北側の展望からは工業団地まで見ることができる



ガイダンス施設の展示館にて

[6月定例山行-2]矢筈岳

西峰コース

矢筈岳は標高666mで日之影町にあり尖山の東峰と西峰が有る。東峰から東対面には比叡山760mが聳えクライミングのメッカでもあって天気の良い時はクライマーの姿を見ることが出来る。森林セラピー・丹助岳・矢筈岳コースになっており、九州自然歩道もあり行膝山から高千穂町への通過点でもある。昭和40年、祖母・傾国定公園特別地域に指定されている。

北川の道の駅から約45分で矢筈岳駐車場に着く、途中矢筈岳展望所があり簡易トイレもあるので是非利用したい。西峰は急峻な岩登りであるクライミングの技術も必要であるため、自分の体重を支えられない人、高所恐怖症の登山者には勧められない。

今回は登山の前にミニ講習も兼ねて、スリングとカラビナを利用したチェストハーネスの作り方をを行い、ロープを使い両手で10秒間ぶら下がる体験をして東西分かれての登山となった。東峰には駐車場(600m)から120mも下り山頂の666mに登り返すコースである。西峰は春にはドウダンツツジ、ヒカゲツツジ、ケイビラン、イワ

平田 五男

ツツジが見られる。岩場の取り付きが始まるとロープも使いながら慎重に登る。その頑張った先には珍しい紅紫色のウチョウランが一株見られた。スリリングな登りを1時間くらいで山頂に着く。狭い山頂で標柱はない。山並みをバックに集合写真を撮り東峰へと繋がるコースを下りる。途中、生憎の雨が降ってきた。急坂を鞍部に駆け抜けると東西の案内看板が置いてある。以前、西峰には「危険」と書いてあったがロープ場を整備した甲斐有って消されていた。

東峰山頂は東方しか展望出来ないがクライマーならルート確認に登る希少価値の山頂でもある。雨も上がり、駐車場に着くと東峰に登った仲間が遅時の昼餉に私達を待って下さっていた。

<参加者6名>橋口三枝子・竹田裕見子・武田芳雄・平田五男・荒武達朗・山友:高山

<コースタイム>ヤマダ電機7:00~つの道の駅8:10~日向から高速~よっちみろ屋9:05~展望所9:50~矢筈岳駐車場10:10/10:50西峰山頂11:55~分岐12:23~登山口13:10(昼食)14:00発~よっちみろ屋14:40~ヤマダ電機駐車場17:20



矢筈岳西峰山頂



緊張の中にもスリリングを楽しむ



岩場に咲くウチョウラン
野生のものは乱獲や環境
の変化で少なくなっており
絶滅危惧Ⅱ類となっている

東峰コース

日高研二

東峰コース組は登山口の矢筈岳駐車場から西峰コース組と別れ、左に丹助岳を見ながらぐんぐん下っていく。下方から吹いてくる風も爽やかで、木々の緑もとても清々しく感じられ、心を癒してくれる。約120m降下した後、一転急登となり、西峰と東峰を結ぶ鞍部に出て、ここから約15分で東峰山頂に到着。山頂からはロッククライミングで全国的にも有名な比叡山を間近に見られその迫力に圧倒される。なお山頂で昼食の予定であったが、予期せぬ雨が降り出したため、急遽予定を変更し、往路を戻り下山。駐車場で昼食を摂った後、帰路に着いた。

<参加者6名>栗林淳子・蔵屋とよ・白賀智子・柏田英子・日高研二、山友:興根

<コースタイム>矢筈岳駐車場10:50~西峰・東峰鞍部(分岐)11:30~東峰山頂11:45/12:00~矢筈岳駐車場13:00



矢筈岳東峰山頂

[7月定例山行] 竜峰山・鞍ヶ峰 7月27日(日)

橋口 三枝子

宮崎はこのところ雨の日が続いている。天気が気になる山行だったが幸い熊本八代の天気は晴れの予報。予定通り、竜峰山・鞍ヶ峰の山行となる。7時に大淀川河川敷をマイクロバスにて12名の参加で出発する。えびのから高速道を利用し八代インターで降りる。5分程で熊野神社があり、ここも登山口があるが、我々はそこから10分程先にある中腹広場(5合目登山口)に着く。

駐車場からは遠くの山並み、八代海、八代平野の街並みが素晴らしい。駐車場裏手の林の中を少し登るとコンクリートの道に出る。この山のルートはいくつかあり、ここで林道～分岐、らくらくコースで竜峰山を目指すグループと、竜峰山～鞍ヶ峰～竜ヶ峰を目指すグループに分かれての登山となる。

我々(6名)は竜ヶ峰までのコースとする。ほぼ一直線に登る急登、すぐに丸木の階段が山頂まで続く。標高517mだが一気に登る約300mの高低差はしんどい。20分程登ったところでらくらくコースの分岐となり迷わずそちらのコースを選ぶ。緩やかな気持ちの良い森林の中の歩きにホッとするが、すぐに急な登山になる。らくらくコースとは言え息を切らしながら約1時間で竜峰山山頂へ行く分岐に着く。山頂へ行くには戻らなくてはならないため帰りに行くことにしてそのまま鞍ヶ峰に行くことにする。すぐに石灰岩が広がる地帯となり緩やかに下っていく。その石灰岩のスケールは壮大で迫力満点。その岩を上り下りして進むと「竜の岩屋」とあるがそれがどこなのかは確認できなかった。何度もアップダウンを繰り返し急登を踏ん張り11時50分鞍ヶ峰山頂に到着。展望はないが心地よい風が気持ち良い。ここから竜ヶ峰は一旦急斜面を下りその向こうに見える山を登山り返すことになる。行きたい気持ちもあるが疲れた体と帰りのことも考えると断念しここで昼食。



ここで二班に分かれて出発する

12時20分下山出発。ときおり音楽の音色がかすかに聞こえてくる。辻峠の鞍部は龍峯小学校へと繋がるコースだ。音色は龍峯小学校からと思われた。竜峰山まで数えて見たら大小5つのアップダウンだった。13時35分竜峰山山頂。山頂広場は緑の広い広場で休憩舎などもあり心地良い。駐車場広場から見る展望と同じなのだがここから見る八代海などはその数倍素晴らしい。しばし展望を楽しみ直登の階段を下る。14時20分駐車場登山口に着く。一足先に到着されたらくらくコース組の皆さんと合流。こちらも全員予定のコースで竜峰山山頂を堪能されたと聞く。ちなみにこの階段777段あるそうだ。

今回はマイクロバスにて快適な山行となった。運転を引き受けて下さった荒武達朗会員本当にありがとうございました。高速を降りてからは道も狭くなり大型車は大変だったと思う。見事なハンドル裁きにただただ感心し感謝する。

熊本を出るまではとても良い天気だった。しかし、トンネルを抜けえびのに入ると突然の雨、小林では滝のような大雨となり今回の山行が山一つ隔てて晴天をもたらしてくれた事にも感謝。

<参加者12名> 清家順子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・川越玲奈・柏田英子・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・荒武達朗(名前下線が竜峰山～鞍ヶ峰コース組)

<コースタイム> 大淀川河川敷7:00～道の駅ゆーばるのじり7:40～えびの(高速道)～八代インター～中腹登山口9:50/10:10発～竜峰山分岐11:10～鞍ヶ峰11:54/12:35～竜峰山13:35/13:45～登山口14:25/14:40～山江パーキング15:20～道の駅ゆーばるのじり16:50～大淀川河川敷17:50



石灰岩の尾根を歩く



[8月定例山行] 猪八重溪谷散策 8月24日(日)

山上章二

当初、九州脊梁の「向坂山・白岩山」にキレンゲショウマを鑑賞するため山行予定であったが、応急工事により開放されていた林道の災害復旧工事の再開で、全面通行止めとなっていて、そして何より群生地のキレンゲショウマがシカの害なのかほぼ絶滅状態となっているとの情報で急きょ、県南の鰐塚山地の猪八重溪谷を散策する事となった。

溪谷入口の駐車場で準備運動を終え、9時20分飢肥杉チップロードの適度に柔らかく靴底への優しい反動と杉の芳香を感じながら入山。溪谷沿いを歩き折り返し地点の五重の滝を目指す。

猪八重溪谷は五重の滝をはじめ7つの滝群に加え、ネムノキやカラスザンショウ等の落葉高木、ヤマビワやツブラジイ等の常緑高木やコケ類が自生しており季節を選ばず楽しめる豊かな溪谷である。特にコケ類は、地域特有の多雨多湿の環境の中、年間を通して一定の湿度と温度が保たれているため、その面積に比べて極めて多くのコケ植物が生育している。日本に約1,900種あるコケ植物のうち300種近くが報告されており、九州を代表するコケ植物の宝庫として知られている。特に流合(はけあい)の滝周辺では、樹木枝から長く垂れ下がるサガリゴケ類と生きた植物の葉の上に生育する微小な生葉上苔類が豊富であり、保護すべき絶滅危惧種も多数報告されている。



ヒュウガギボウシ



イワタバコ

溪谷沿いを歩き始めて30分、上流の開拓地へ送電するため昭和20年代に使われていた水力発電所用イゼキ跡を通過、続けて昭和30年代頃まで奥山から木材搬出の為に使われていた軌道(トロッコ道)を通過し、溪流を横切る中間地点の「ネムノキ橋」を過ぎた岩場で清流を眺めながら会員皆で小休止。溪谷の対岸にはヒュウガギボウシの群生やイワタバコ、ミズヒキ、モミジコウモリ等の花、そして色とりどりのキノコも沢山見ることができた。崩れかけた炭がま跡を通過し、最後の「ヒノキ橋」を渡り入山から2時間で折り返し地点の五重の滝に到着。滝の下に設えた様な20畳程の一枚岩の上で、マイナスイオンを浴びながら昼食タイム。

昼食を終え12時に下山開始。入山時は快晴だったが途中で降雨となり、土砂降りの中を1時間程雨に打たれながら溪谷沿いを下り、全員無事に出発点の駐車場へ到着した。

猪八重溪谷は“森林セラピーロード”として科学的にセラピー効果が実証されており、終盤の雨も含め、自然の豊かさを満喫できた約4時間の散策だった。

<参加者13名> 清家順子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・柏田英子・前原満之・日高研二・櫻木勉・服部岩男・弓削達雄・山上章二

<コースタイム> 清武ナフコ駐車場発8:20～猪八重溪谷駐車場9:10/9:25～イゼキ跡9:50～流合の滝11:13～五重の滝11:25(昼食)～12:00下山～猪八重溪谷駐車場13:40～清武ナフコ15:00



5重の滝の前で

【自然保護委員会】

小谷登山道草刈り作業 6月21日(土)

前原 満之

年間で1番昼の長い日(夏至)のこの日。暑い中、ご参加いただいた2組のご夫婦には頭の下がる思いである。トイレが設置されてから私にとっては、初めての小谷登山口であった。行事前に早速利用。作業後の着替えにも利用させていただいた。関係各位のご尽力に感謝し、皆で末永く掃除を続け、きれいなトイレを守っていかなければ・・・。

今回は、登山道の草刈り作業との事であったため、多くの人がその作業をされており、私は少しでも苗木を救いたいと藪に入った。巻きついた蔓を切り、ハゼノキ、カラスザンショウ、アカメガシワ等を切る(苗木に支障がない場合は、下草が繁茂しないようあえて残し、後で切ることもある)。低い苗木(残したい自生木にも)には持参したピンク色のテープをつけていく。隣の杉の苗木の所は草刈り機できれいに手入れがされていた。後で聞いた話では、蜂に刺された人がいたようだが、その人はポイズンリムーバーを持参していたとの事(立派！)。私は防虫網を持参していたが皆さんお付けにならない。つけてみる

とそう煩わしくないのでは非つけて防蜂対策をしていたきたい。ヤマボウシが今を盛りと咲いているが、白いは花びらでなく、葉っぱ(総苞)であり、花を保護するため花が散った後も長く残るため鑑賞期間が長いとの事である。ヤマアジサイは花の盛りは過ぎていた。10時には降りて来てとの事だったが暑さのあまり少し早めに下山した。皆さんお疲れ様でした。

参加者45名(当支部6名) 谷口敏子・服部澄子・橋口三枝子・前原満之・谷口菊美・服部岩男



もくもくと作業に打ち込む



暑い中 作業を終えて お疲れさまでした

遂に完成！小谷登山口トイレ(双石山)

長年の願いが実を結び、双石山登山口に新しいトイレが令和7年3月に完成した。市山岳協会会長はじめ皆様の努力と行政の皆様のご理解とご協力に感謝です。さっそく4月から使用することができ登山者の皆様が安心して山を楽しめるようになりました。心より感謝です。

施設管理はしばらくの期間、市山岳協会の方で行うこととなっています。4月から協会所属団体、他による持ち回りで原則毎週月曜日に管理(施設巡視、施設内外の清掃、施設周辺のごみ拾い、落ち葉撤去等)を行う事となっています。当山岳会の当番は8月(済)・2月(R8)となっています。



小谷登山口にできたトイレ いつまでもきれいに使っていきたい

【個人山行】

念願かなった富士山登山 8月1～2日(金・土)

白賀智子

日本山岳会宮崎支部の会友に入会させてもらった時「富士山に登るのが夢です」と言った。登山経験が0なのに3776mの富士山に登ろうとするのは無謀な挑戦である。コロナなどの事情で延び延びになっていたが、ついに今年、夢がかない8月1日、2日に予約が取れて挑戦する事ができた。吉田ルートから8合目1泊のフリープランで。長男、次男と三人で登るのは初登山。平日の登山のため三男が参加できないのが残念であった。

曇り予報と台風の影響で天気は気になるころだが、晴れ女の実力が見せられるか?五合目の登山口に到着までは霧が濃く車窓からは景色が見えなかったが着く頃には、綺麗に晴れ、期待にわくわく。11時09分お天気雨で雨具を着てスタート。長い砂利道が歩きにくく体力をつかう。初心者の長男が先頭を歩き「疲れるね」と言ってくれたので休憩をたくさん取りながら、後ろの次男からは「母さんが、登りたいって、言ったよね～」と励まされながら登っていく。7合目辺りから何度も立ち止まり少し疲れてきた。8合目3100mくらいになると、この高さの経験がないので、一層足取りも重くなる。それでも心配していた高山病は大丈夫そうだ。途中点在する山小屋で休憩を取りながら本8合目3400mの頂上に近い山小屋に着いた。16時36分約5時間半かかった。

小雨に少し濡れて寒いので 温かい夕食を食べた後、3階の宿泊スペースに行き着替え、寝袋に潜り込み少し寝る。

23時頃トイレに外に出るが晴れているものの星は見えず小屋番の人に聞くも、ご来光は微妙らしいと。寝ては目が覚めるを繰り返し2時頃起き出して朝食後3時、真っ暗の中、頭にヘッドライトを付けて山頂目指しスタートする。濡れた岩に滑りそうになりながら60分で念願の頂上に到着!三人で記念写真を撮る。寒いので豚汁を食べながらご来光の時間を待つ。4時半頃には明るくなるが霧と雲が多く残念ながらご来光は望めそうにない。お鉢も歩きたかったが長男の足が限界に近いようであきらめて下山をする。下り始めると霧も晴れ、山中湖の上に登る太陽とオンタデの群生、見下ろす山々と街並みがとても美しく絶景に感動。ジャリジャリ、ジグザクの下山道に膝が笑いながらも無事に8時12分に下山できた。

息子達と登った富士山、一生の宝物の思い出となった。感謝です。

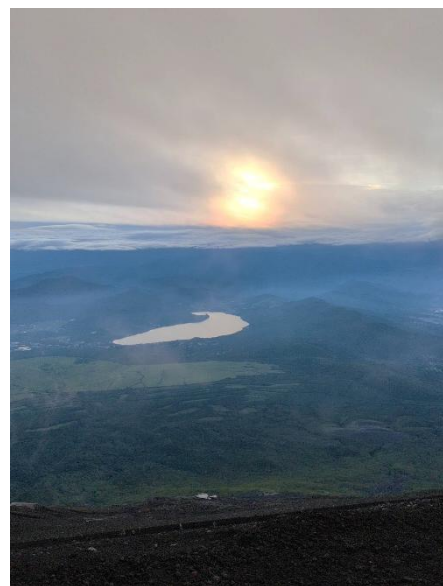
山岳会に誘ってくれた蔵屋さん、皆さんにも感謝したいです。



高度も上がりしんどいが、息子達の励ましが力になる



夜明け前、念願の山頂で記念写真



見下ろす眼下に山中湖の上には頑張ったご褒美の太陽が輝いていた

[事務局だより]

支部行事予定表(9月～12月)

月 日	行事名	備 考
9月11日(木)	310回定例登山研究会	宮崎市中央公民館台風のため9/4→9/11日に変更
9月13日(土)	百貫山 えびの市	大淀川河川敷ゴルフ場駐車場 8:00出発
9月20～21日(土・日)	九州5支部集会 熊本支部主催	古道調査発表会・阿蘇古道歩き
10月2日(木)	311回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
10月11日(土)	ときめき家族登山	釈迦ヶ岳 国富町
10月26日(日)	烏帽子岳 霧島市	大淀川河川敷ゴルフ場駐車場 7:00出発
10月26～27日(日・月)	第38回全国支部懇談会	関西支部主催 大阪ガーデンパレス
11月6日(木)	312回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
11月3～4日(日・月)	宮崎ウエストン祭	4日 記念登山 祖母山周辺
11月23日(土)	山の日イベント	市山協会主催 双石山・徳蘇山系周辺の山
12月4日(木)	313回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
12月6日(土)	清掃登山・支部懇親会	清掃 小谷登山口周辺 登山双石山

支部会務報告(5月～9月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備考
5月2日(金)	祖母山山開き前夜祭	高千穂町	4	
5月7日(木)	第306回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	19	役員・委員長会(7)
5月10日(土)	二ツ岳	高千穂町		雨天中止
5月18日(日)	水源の森づくり総会	活動センター	2	
5月21日(水)	87号支部報発送			A4. 10ページ 120部
5月25日(日)	定例山行高千穂峰・池めぐり	小林市	12	
6月5日(木)	第307回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	役員・委員長会(7)
6月15日(日)	定例山行 穆佐城散策	宮崎市高岡町	13	ガイド案内
6月21日(土)	登山道整備下草刈り	小谷、塩鶴登山道	6	総数約45名
6月22日(日)	矢筈岳	日之影町	12	
7月3日(木)	第308回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	19	役員・委員長会(7)
7月10～13日	宮崎支部創立40周年記念山行	長野県 八ヶ岳・入笠山	17	3コースにて
7月27日(日)	定例山行 竜峰山～鞍ヶ峰	熊本県八代	12	マイクロバス
8月7日(木)	第309回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	12	役員・委員会(7)
8月9日(土)	飯盛山	えびの市		雨天中止
8月24日(日)	猪八重溪谷	北郷町	13	向坂・白岩山より変更
8月25日(月)	双石山山小屋補修作業		2	総数9名
8月4, 11, 18, 25日	小谷登山口トイレ掃除当番	小谷登山口	総数 18	原則月曜日 8月、当支部当番
8月30日(土)	支部設立40周年準備委員会会議	活動センター	7	

投稿のお願い山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしく願います。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

今年の夏は猛暑と各地で大雨による洪水・土砂崩れなど大きな被害をもたらしました。幸い当県は大きな被害はなかったが、いつ訪れるかわからない自然災害、心していかなければならないと思っています。そんななか宮崎支部は今年設立40周年となります。7月には記念山行で八ヶ岳にコースを分け実施することができました。天気にも恵まれ最高の記念山行となりました。皆様のご協力のおかげと思っています。これから記念誌作成に本格始動、各種行事が控えています。皆様の協力なしには成り立ちません。皆様の温かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。(橋口)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 88号

発行責任者：日高 研二

編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ

事務局：橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座：郵貯銀行 記号 17310 番号16269811

名義人：(社) 日本山岳会宮崎支部